

令和元年5月29日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284037

研究課題名(和文) 観世家のアーカイブの形成と室町期能楽の新研究

研究課題名(英文) The new study on formation of the archive of the Kanze family and the history of Noh during the Muromachi period

研究代表者

松岡 心平 (Matsuoka, Shimpei)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：70173812

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,900,000円

研究成果の概要(和文)：観世文庫の能楽関係資料は、質・量ともに能楽に関する最重要の資料群である。本研究では、これらの資料の調査・研究に基づき、書誌解題目録の基礎稿を作成すると共に、インターネット上で画像と解題を公開するデジタル・アーカイブ「観世アーカイブ」を拡充させ、これを活用して室町期能楽史の研究を進めた。特に、観世家の蔵書形成に七世観世大夫の観世宗節(1509-1584年)が果たした役割を解明することに重点を置いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

観世文庫は、能楽研究の根本となる観世大夫家伝来の能楽関連文献を有しながら、これまで一部の貴重資料を除けば、その全体像は知られていなかった。本研究により、観世文庫にある全ての文献の書誌と解題が整った上、それを世界中の研究者・能楽愛好者に対し、ネット上で公開することで、将来にわたる能楽研究の基盤を整備することができた。また、この資料群が形成される過程で七世観世大夫宗節が果たした役割と、その背景を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The Kanze Bunko Library holds some of the most important documents related to the Noh theater. Over the course of our research, we have investigated these documents, and completed the basic manuscript of these document lists, and expanded the online digital archive ("Kanze Archive"), which provides access to a variety of images and explanatory notes. The archive has allowed us to make great progress in researching the history of Noh during the Muromachi period. In particular, our research has focused on elucidating the role that Kanze Sosesu (1509-1584, the 7th head of the Kanze school) achieved.

研究分野：日本中世芸能

キーワード：能楽 観世文庫 観世大夫 デジタル・アーカイブ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

観世宗家には、観阿弥・世阿弥が活躍した室町時代から現代に至るまで代々守り伝えられてきた貴重な能楽資料があり、1991年にその保存・活用を目的として財団法人観世文庫が設立された。文献資料については、法政大学能楽研究所による調査の成果が「観世宗家所蔵文書目録」(『観世』39巻4号～44巻2号、1972-1977年)として公開されたが、その対象は室町期の主要文献及び江戸期の謡本(写本)のみで、近世・近代の膨大な資料の大半が未整理のまま残されていた。

2002年、観世文庫が新たな資料保管設備を整えるにあたり、財団理事である松岡心平に対して、文献資料のアーカイブ化を前提とした包括的な調査の依頼があった。松岡は国文学研究資料館の協力のもと2003年より調査を開始し、2006年からは科研費・基盤研究(A)「観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究」の交付を受けて調査が大きく進展し、観世文庫に寄贈・寄託された六千点に及ぶ文献資料の書誌調査及び写真撮影を完了、これをデータベース化した。その成果を、能楽や日本文化に関心を持つ世界中の人々に公開するために、2009年10月「観世アーカイブ」

(<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kanzegazo/index.html>)を設置し、同年その記念の展覧会「観世家のアーカイブ 世阿弥直筆本と能楽テキストの世界」(東京大学駒場博物館、2009年10月10日～11月29日)でも調査の成果を公開した。

2010年からは科研費・基盤研究(B)「観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル・アーカイブを活用した新しい能楽史の構築」の交付を受け、さらなる資料調査とアーカイブの充実をはかった。2011年には、「観世アーカイブ」公開によって、観世文庫がアート・ドキュメンテーション学会の「第5回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞」を受賞するなど高い評価を受けている。

観世文庫資料のデータベースがウェブ公開され、世界中から能楽資料の書誌と画像を閲覧できるようになった今、このデータベースをもとに研究が進み、能楽史が大きく塗り変えられていくのは間違いない。我々は、この世界的な能楽研究の基盤をさらに充実させ、より利便性の高いものにしていく責務を負っている。また、この観世家のアーカイブがどのように形成されたのかという問題が、未解明の謎として残されている。ここで特に重要となるのが、アーカイブの源流を形作った七世観世大夫・宗節(1509～83)が果たした役割の解明である。そこで、先述の科研費による調査メンバーを引き継ぎ、これまでの観世文庫研究を継続して集大成する計画を立てた。

2. 研究の目的

観世文庫に寄贈・寄託されている観世宗家伝来能楽関係資料は、世阿弥自筆本や代々の観世大夫関係文書をはじめとした、質・量ともに能楽に関する最重要の資料群である。観世文庫ならびに観世宗家・観世清和氏の全面的な理解と協力の下、松岡を代表とする能楽研究者がこれらを調査・撮影し、2009年10月からインターネット上で広く書影を公開するデジタル・アーカイブを構築した。この資料群のさらなる研究が、能楽史研究、能の作品研究、演出研究、能楽論研究などに与える恩恵は計り知れないものがある。本研究は、このアーカイブに書誌・解題などの文字情報を付加し充実させ、書誌解題目録としても公にすると共に、これを活用して観世家のアーカイブの形成と室町後期能楽界の解明をめざし、世界遺産となっている能楽の一層の進展に寄与しようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 観世文庫調査に基づく書誌解題目録の作成、「観世アーカイブ」の改訂・拡充

研究分担者および研究協力者が集まり、数日間にわたる観世文庫の原本調査を、各年度3～8回にわたって行い、ファイルメーカーのデータの形で、書誌・解題情報の補充や整理・改訂を進めた。データとして取っているのは、整理番号・大分類・細目・グループ・目録書名・外題・内題・著編者名・筆者版元・写刊の別・写刊年代・年記(和暦・西暦)・装訂・寸法・数量・数量単位・丁数・箱帙袋の有無・保存状況・現状保管位置・所蔵者、などの書誌項目と解題である。この他、検索等の便宜のために、キーワード・親資料/子資料・備考(作業履歴)などの欄を設け、編集にあたった。書誌解題目録の編集段階では、ファイルメーカーのファイルをgoogleスプレッドシートのファイルに変換し、オンライン上で複数人が同時に作業をする形も併用した。そして、このファイルメーカーによる書誌解題目録データベースを土台とした、インターネット上の画像データベース「観世アーカイブ」を拡充し、利便性を高めた。

本科研の開始当初でも、原本画像に詳しい解題が組み合わされたアーカイブはできていたが、一部資料の解題が備わらず、簡略な書誌情報のみに留まっていた。そこで、まず全ての資料の書誌と解題を付けることを目指した。「観世アーカイブ」では、検索画面から、フリーワード・書名・著編者/筆者版元などによって関連資料を抽出し、その書誌データや画像を比較検討することができる。伝来資料を総体としてとらえ、個々の資料をそこに位置づけることで、その史料価値は初めて正確に計測できるが、検索を行うことができる「観世アーカイブ」はこの点で大きな力を発揮する。これを踏まえた原本の再調査によって、関連資料の書名表記を整えるなど相互参照の利便を図り、既存の解題にも新たな知見を盛り込んでいった。その結果を順次、データベースに入力した。こうした作業を通して、解題目録データベースの内容を少しずつ

つ充実させ、解題目録（仮称『観世文庫所蔵能楽資料解題目録』）の完成を目指した。

（2）観世宗節を中心とした室町期能楽の新研究

観世文庫には観世宗節自筆本や室町期能楽資料が多く所蔵されており、その詳細な研究により、観世家のアーカイブ形成を解明すると共に、現代につながる能の基礎が確立した時代を解明することを目指した。また、観世宗節を中心とする観世家蔵書群の形成過程や室町後期能楽の動向をテーマとする研究会を立ち上げ、研究発表と意見交換を行った。あわせて、観世宗節が書写した世阿弥伝書をはじめとした能楽伝書の一部について、研究協力者を中心に分担を決めて翻刻データを作成し、宗節写本の意義を考察した。

4. 研究成果

（1）観世文庫調査に基づく書誌解題目録の作成、「観世アーカイブ」の改訂・拡充：

観世文庫所蔵能楽関係資料の書誌解題目録を作成し、ネット上の「観世アーカイブ」を拡充するため、観世文庫において原本調査や目録編集作業を継続して行った。この原本調査により、すでに撮影したデジタル画像に基づいて作成していた資料解題を見直し、新たな書誌・解題情報を加え、その結果を文献データベースに統合した。

これらの資料は、A 謡本、B 伝書・注釈等、C 付、D 史料、E 狂言、F その他、の大分類に分け、各分類毎にさらに細目を設けて分類している。全体が見渡せるようになった段階で、個別の資料について大分類を変更する必要が出てきたものや、細目をさらに細分化する必要性が生じた。その見直し作業は完了したものの、全体にわたる不統一を改める作業や、書名や解題の内容の点検・見直し作業は予想以上に問題が多く、配列にもまだ時間を要することから、当初の予定通り書誌解題目録を刊行する段階にまでは至らなかった。ただし、仮目録は作成することができ、目処はついたため、残りの課題を解決して、2019年度中に刊行する予定である。

これらの成果をネット上の「観世アーカイブ」に反映させると共に、「観世アーカイブ」のレイアウトを改め、Flash Player がなくても画像を見られるようにした。スマートフォンなどから閲覧する際も、特別なブラウザがなくても問題なく使えるようになった。そして、世界中の研究者・能楽愛好者に対し、能楽研究の根本となる観世文庫資料の情報をネット上で公開するという研究基盤を充実させることができた。

なお、本課題の研究期間を通して、観世文庫資料の中から興味深いものを毎月1点ずつ選び、写真と解題により月刊『観世』の「観世文庫の文書」というコーナーで紹介している（後掲5④）。これは松岡監修のもと、本科研の研究メンバーが輪番で担当しており、研究成果を一般にわかりやすく紹介するために継続してきたものである。

（2）観世宗節を中心とした室町期能楽の新研究：

観世文庫での原本調査にあわせて、七世観世大夫宗節に関する研究会を継続的に開催した。観世宗節は、『花伝第七別紙口伝』をはじめ、徳川家康が所蔵していた越智観世家伝来の世阿弥伝書を転写し、それが観世文庫に貴重な伝本として伝わっているように、観世家のアーカイブの形成を考える上でも重要な大夫である。この宗節研究会での研究発表は、松岡心平（研究代表者）、落合博志（研究分担者）、江口文恵（研究協力者）、天野文雄（研究分担者）、長田あかね（研究協力者）、中尾薫（研究協力者）が順に行い、参加者の間で意見を交換した。また、科研メンバーが輪番で月刊『観世』に連載した「観世文庫の文書」の中でも、観世宗節筆の世阿弥伝書『却来華』抜書や、宗節が書写した謡本でこれまで知られていなかった新出本などを新たに紹介した。

また、観世宗節が書写した世阿弥伝書をはじめとした能楽伝書の一部について、研究協力者を中心に分担を決めて、翻刻データを作成した。そして、観世文庫のデータベース「観世アーカイブ」において、画像と翻刻データを統合して表示することを目指したが、技術的・資金的な問題から、研究期間内に実現することはできなかった。ただし、この作業を通して宗節写本の特徴などの情報を共有することができた。

室町幕府・足利将軍家と能楽の関係については、2015年5月9日に京都・賀茂御祖神社（下鴨神社）において、本科研の主催行事としてシンポジウム「糺河原勤進猿楽とは何だったのか 足利将軍と能楽」を開催した。松岡心平・小川剛生（研究分担者）他が登壇し、観世文庫に残る「寛正五年糺河原勤進猿楽図」などに基づき、足利義満以来、室町将軍家にとって重要な役割を果たした勤進猿楽のあり方や、糺河原勤進猿楽の政治的・文化的意義を明らかにした。また、後掲5⑮⑳等の論文によって、室町幕府との密接な関係を築いた音阿弥の生涯を考証し、後掲5⑰の論文では、室町幕府の正月の祝言として催されていた松囃子がのちに定例化し、江戸幕府の年始の重要な行事である謡初へ発展していく過程を明らかにした。

なお、これは室町期という枠を越えるが、江戸時代に能楽の大改革を行った十五世観世大夫元章に関する研究書『観世元章の世界』を2014年に刊行した（後掲5⑱）。観世元章に関する十四本の論考と、元章に関する小事典や特集コラム、元章年譜と研究資料目録などを収めた600頁に及ぶ研究書である。観世文庫の資料を活用した新しい研究成果を盛り込んでおり、観世元章が室町期の蔵書をどのように捉えたかということも含め、能楽史全般や観世家の蔵書研究を進める上で重要な研究成果といえる。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 43 件)

松岡心平、松囃子から謡初へ、観世、査読無、85 巻 9 号、2018、pp . 26-33

天野文雄、「二人の三郎」からみた室町時代「能作」史、中世文学、査読有、63 号、2018、pp . 48-57

天野文雄、足利義政下賜観世家旧蔵の千鳥の面箱について、おもて、査読無、138 号、2018、pp . 8-9

天野文雄、観世流の『国栖』の詞章とその来歴、鍔仙、査読無、680 号、2018、pp . 3-5

高桑いづみ、夕顔 前シテの登場と後場の舞、鍔仙、査読無、686 号、2018、pp . 4-6

宮本圭造、観世家のルーツをたどる旅 音阿弥の三百回忌法要と観世元章、観世、査読無、85 巻 6 号、2018、pp . 28-35

宮本圭造、能 項羽 のツレ虞氏は必要不可欠か、鍔仙、査読無、685 号、2018、pp . 3-4

横山太郎、能であることの先へ ミュンヘン・カンマーシュピール『NO THEATER』、ASSEMBLY、査読無、3 巻、2019、pp . 42-46

高橋悠介、地獄蘇生の春日靈験譚と解脱房貞慶、国宝春日大社のすべて、査読無、2018、p182

高橋悠介、散逸曲 仏頭山 の題材と環境、能と狂言、査読有、16 号、2018、pp . 130-137

高橋悠介、能楽に摂取された法華・阿弥陀・観音融和の偈句 「昔在靈山名法華」の偈の源流と展開、画期としての室町 政事・宗教・古典、査読無、2018、pp . 230-248

山中玲子、二人静 一音阿弥の演出・元章の解釈、観世、査読無、85 巻 3 号、2018、pp . 28-35

横山太郎、近代能楽のわざと表現（六） 観世、査読無、85 巻 3 号、2018、pp . 40-45

松岡心平、音阿弥の生涯（一） 足利義教と音阿弥 、観世、査読無、84 巻 8 号、2017、pp . 34-41

松岡心平、音阿弥の生涯（二） 足利義教から義政へ、観世、査読無、84 巻 9 号、2017、pp . 26-35

松岡心平、復曲「吉備津宮」に寄せて、岡山ゆかりの幻の能 復曲「吉備津宮」記念公演、査読無、2017、pp . 4-7

松岡心平、山名宗全の勸進猿楽、鍔仙、査読無、676 号、2017、pp . 3-5

天野文雄、弘治三年の駿府の「観世大夫」は宗節か 戦国期における観世座の地方下向望見、能と狂言、査読有、15 号、2017、pp . 127-134

山中玲子、源氏物語と能楽研究、能と狂言、査読有、15 号、2017、pp . 36-46

宮本圭造、狂言台本研究の現状と課題、武蔵野文学、2017、査読無、65 号、2017、pp . 20-26

②①宮本圭造、金春家本面の復元、能と狂言、査読有、15 号、2017、pp . 76-92

②②小川剛生、晩年の音阿弥 仙洞演能をめぐる、観世、査読無、84 巻 10 号、2017、pp . 28-35

②③小川剛生、室町期の武士と源氏物語、能と狂言、15 号、2017、査読有、pp . 3-17

②④江口文恵、宝生大夫の京都屋敷 観世大夫家・大徳寺との関わりから 、能と狂言、査読有、15 号、2017、pp . 118-126

②⑤松岡心平、翁 古くて新しい超越性の誕生、現代思想、査読無、45 巻 2 号、2017、pp . 47-53

②⑥松岡心平、阿古屋松 木と神と人は出会う、国立能楽堂、査読無、403 号、2017、pp . 25-28

②⑦松岡心平、一休と能、禅文化、査読無、241 号、2016、pp . 32-48

②⑧松岡心平、翁の宗教的性格 荒神としての父尉、能と狂言、査読有、14 号、2016、pp . 44-50

②⑨松岡心平、「遊行柳」をめぐる断章 生命の循環と復興と 、観世、査読無、83 巻 9 号、2016、

pp . 24-31

- ③⑩高橋悠介、能の亡霊と魂魄、能と狂言、査読有、14号、2016、pp . 30-43
- ③⑪高桑いづみ、謡用語の表記 上歌・序・上八など、銕仙、査読無、2016、343、4-5
- ③⑫宮本圭造、面打井関考、能楽研究、査読無、40号、2015、pp . 61-133
- ③⑬高桑いづみ、室町時代のアクセントと謡のフシ 《松風》の復元を中心に、無形文化遺産研究報告、査読無、10号、2016、pp . 76-90
- ③⑭松岡心平、景清の深層 琵琶法師と猿楽の間、銕仙、査読無、653号、2015、pp . 4-5
- ③⑮宮本圭造、教養としての謡 室町文化はいかに継承されたか、形成される教養、査読無、2015、pp . 97-127
- ③⑯山中玲子、檀風「孝養」の習事 死者を悼む演技をめぐる、文学、査読有、16巻2号、2015、pp . 181-189
- ③⑰松岡心平、女人の穢れを許容する時宗と能、銕仙、査読無、642号、2014、pp . 4-6
- ③⑱宮本圭造、明和九年の観世元章上京をめぐる新資料、銕仙、査読無、638号、2014、pp . 3-4
- ③⑲宮本圭造、鳥根比布智神社の『風姿花伝』、世阿弥の世界、査読無、2014、pp . 14-17
- ④⑰山中玲子、能 江口 の描くもの、観世、査読無、81巻12号、2014、pp . 24-31
- ④⑱山中玲子、世阿弥の「風情」、世阿弥の世界、査読無、2014、pp . 18-20
- ④⑲高桑いづみ、《四季祝言》《敷島》の謡復元、能と狂言、査読有、12号、2014、pp . 14-24
- ④⑳松岡心平・天野文雄・小川剛生・落合博志・小林健二・高桑いづみ・高橋悠介・宮本圭造・山中玲子・横山太郎・青柳有利子・家原彰子・伊海孝充・井上愛・鶴澤瑞希・江口文恵・恵阪悟・倉持長子・黒沼歩未・佐藤嘉惟・中尾薫・長田あかね・中司由起子・中野顕正・橋場夕佳・原瑠璃彦・深澤希望・柳瀬千穂、観世文庫の文書、観世、査読無、81-86巻、2014-2019、pp . 1-1

〔図書〕(計6件)

- 小林健二、吉川弘文館、『描かれた能楽』、2019、360
- 天野文雄、角川書店、『能楽名作選(上)』、2017、383
- 天尾文雄、角川書店、『能楽名作選(下)』、2017、391
- 高桑いづみ、檜書店、『能と狂言 謡の変遷・世阿弥から現代まで』、2014、284
- 観世清河寿・松岡心平・落合博志・小林健二・高桑いづみ・高橋悠介・宮本圭造・山中玲子・横山太郎・青柳有利子・伊海孝充・井上愛・鶴澤瑞希・江口文恵・恵阪悟・中尾薫・長田あかね・中司由起子・橋場夕佳・深澤希望・柳瀬千穂、檜書店、『観世元章の世界』、2014、566
- 国文学研究資料館編・小林健二解説、勉誠出版、国文学研究資料館影印叢書6 『狂言絵・彩色やまと絵』、2014、139

〔学会発表〕(計21件)

- 山中玲子、Variant stage directions in Noh: signs of creativity or authority?, EAST AND WEST、2018
- 横山太郎、Repression of Free Acting in Noh: Media that Describe Kata (patterns) in Modern Times、EAST AND WEST、2018
- 横山太郎、能と大衆文化、日本演劇学会、2018
- 高橋悠介、能作品の仏教語句を考える、研究集会「能楽資料研究の可能性」、2018

高橋悠介、能に描かれた紀州の神仏 《巻絹》について、紀州地域学共同研究集会シンポジウム「熊野・紀伊路と能楽」、2019

高橋悠介、金春禅竹と自然表象、ワークショップ「和漢の故事人物と自然表象 16、7 世紀の日本を中心に」、2018

高桑いづみ、能楽のクルイと長唄のクルイ、日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画シンポジウム「長唄における獅子物 二つの系譜」、2018

松岡心平、南都と能をめぐる諸問題、能楽学会世阿弥忌セミナー「中世の南都回帰 政治・宗教・文化と能楽」、2017

天野文雄、「二人の三郎」からみた室町期「能作」史の試み、中世文学会、2017

高橋悠介、春日社と南都の律家をめぐって 禅律仏教 / 室町將軍 / 勸進猿樂、能楽学会世阿弥忌セミナー「中世の南都回帰 政治・宗教・文化と能楽」、2017

高橋悠介、金春禅竹の六輪一露説と志玉、日本印度学仏教学会第六八回学術大会パネル発表 A「室町期の南都仏教 東大寺戒壇院志玉とそのネットワーク」、2017

高橋悠介、『玉伝深秘巻』の宗教的基盤と神祇書への展開、和歌文学会・説話文学会・仏教文学会合同例会シンポジウム「中世古今集注とテキスト・信仰・学問」、2017

松岡心平、神仏習合とは何か 翁・荒神・後戸の視覚から、日本仏教総合研究学会、2016

小川剛生、室町期の武士と『源氏物語』、能楽学会、2016

天野文雄、弘治三年の駿府の「観世大夫」は宗節か 戦国期における大和四座の動向望見、能楽学会、2016

江口文恵、大徳寺文書中の能役者の記録、能楽学会、2016

高桑いづみ、明治以前の謡とアクセント、東京文化財研究所第 10 回無形文化遺産部公開学術講座、2015

松岡心平、翁の宗教的性格、能楽学会、2015

松岡心平、足利將軍と勸進猿樂、シンポジウム「糺河原勸進猿樂とは何だったのか 足利將軍と能楽」、賀茂御祖神社参集殿、2015

②小川剛生、寛正五年の足利義政、シンポジウム「糺河原勸進猿樂とは何だったのか 足利將軍と能楽」、賀茂御祖神社参集殿、2015

〔その他〕ホームページ等

観世アーカイブ

(観世文庫の能楽資料の画像と書誌・解題を検索して閲覧できるデジタル・アーカイブ)

<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kanzegazo/>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：天野 文雄
ローマ字氏名：(AMANO, fumio)
所属研究機関名：京都造形芸術大学
部局名：公市立大学の部局等（研究センター）
職名：教授
研究者番号（8桁）：90201293

研究分担者氏名：小川 剛生
ローマ字氏名：(OGAWA, takeo)
所属研究機関名：慶應義塾大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：30295117

研究分担者氏名：落合 博志
ローマ字氏名：(OCHIAI, hiroshi)
所属研究機関名：国文学研究資料館
部局名：研究部
職名：教授
研究者番号（8桁）：50224259

研究分担者氏名：小林 健二
ローマ字氏名：(KOBAYASHI, kenji)
所属研究機関名：国文学研究資料館
部局名：研究部
職名：教授
研究者番号（8桁）：70141992

研究分担者氏名：高桑 いづみ
ローマ字氏名：(TAKAKUWA, idumi)
所属研究機関名：独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所
部局名：その他部局等
職名：特任研究員
研究者番号（8桁）：60249919

研究分担者氏名：高橋 悠介
ローマ字氏名：(TAKAHASHI, yusuke)
所属研究機関名：慶應義塾大学
部局名：斯道文庫
職名：准教授
研究者番号（8桁）：40551502

研究分担者氏名：宮本 圭造
ローマ字氏名：(MIYAMOTO, keizo)
所属研究機関名：法政大学
部局名：能楽研究所
職名：教授
研究者番号（8桁）：70360253

研究分担者氏名：山中 玲子
ローマ字氏名：(YAMANAKA, reiko)
所属研究機関名：法政大学
部局名：能楽研究所
職名：教授
研究者番号 (8 桁)：60240058

研究分担者氏名：横山 太郎
ローマ字氏名：(YOKOYAMA, taro)
所属研究機関名：跡見学園女子大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号 (8 桁)：90345075

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：青柳 有利子
ローマ字氏名：(AOYAGI, yuriko)
研究協力者氏名：家原 彰子
ローマ字氏名：(IEHARA, shoko)
研究協力者氏名：伊海 孝充
ローマ字氏名：(IKAI, takamitsu)
研究協力者氏名：鶴澤 瑞希
ローマ字氏名：(UZAWA, mizuki)
研究協力者氏名：江口 文恵
ローマ字氏名：(EGUCHI, fumie)
研究協力者氏名：恵阪 悟
ローマ字氏名：(ESAKA, satoru)
研究協力者氏名：倉持 長子
ローマ字氏名：(KURAMOCHI, nagako)
研究協力者氏名：黒沼 歩未
ローマ字氏名：(KURONUMA, ayumi)
研究協力者氏名：佐藤 嘉惟
ローマ字氏名：(SATO, kai)
研究協力者氏名：中尾 薫
ローマ字氏名：(NAKAO, kaoru)
研究協力者氏名：長田 あかね
ローマ字氏名：(NAGATA, akane)
研究協力者氏名：中司 由紀子
ローマ字氏名：(NAKATSUKA, yukiko)
研究協力者氏名：中野 顕正
ローマ字氏名：(NAKANO, akimasa)
研究協力者氏名：橋場 夕佳
ローマ字氏名：(HASHIBA, yuka)
研究協力者氏名：原 瑠璃彦
ローマ字氏名：(HARA, rurihiko)
研究協力者氏名：深澤 希望
ローマ字氏名：(FUKAZAWA, nozomi)
研究協力者氏名：柳瀬 千穂
ローマ字氏名：(YANASE, chiho)